中期経営計画

（2024年4月～2027年3月）

大阪港埠頭株式会社

目次

はじめに　P2

Ⅰ　経営理念　P3

Ⅱ　経営方針　P4

Ⅲ　主な取り組み　P5 ～6

（表紙：大阪港紋章は大阪港湾局提供）

はじめに

大阪市を核とする近畿圏は、人口2,000万人を超える一大生産・消費圏を形成し、首都圏とともに我が国の産業経済活動の中枢となっており、大阪港は、その中心に位置し、海陸を結ぶ拠点として重要な役割を担っております。

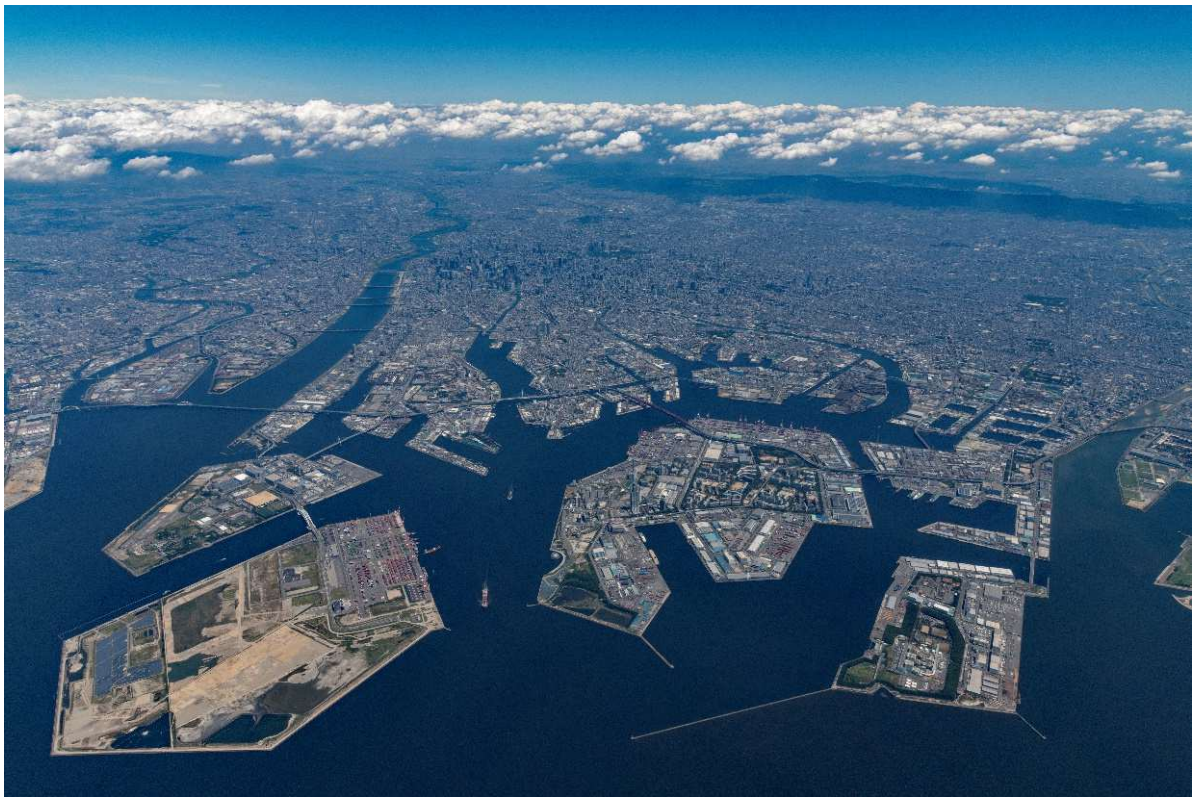
大阪港埠頭株式会社は、「国際コンテナ戦略港湾」政策のもと、平成26年10月に神戸港埠頭株式会社とともに、会社分割により阪神港を一元的に運営する主体として阪神国際港湾株式会社（HPC）を設立いたしました。

これにより、当社が実施してきた大阪港の外貿埠頭・フェリー埠頭の運営についてはHPCに承継し、当社は保有資産の建設、整備及び維持管理の主体としての役割を果たしていくこととなりました。

現在、港湾を取り巻く状況は大きく変化しつつあり、港湾機能の強化・効率化、脱炭素化（CNP）の取組み、代替エネルギーの導入、2024年問題などの対応を早急に進める必要があります。当社は、こうした様々な課題に対して、大阪港湾局及び阪神国際港湾株式会社とともに対応に取り組んでまいります。

このような状況の中、当社が財務基盤の安定化を図り埠頭施設の機能強化などに努めることが大阪港の利用を促進し、ひいては、大阪港が関西の総合物流拠点としてその役割を担うことにつながるものと考えております。

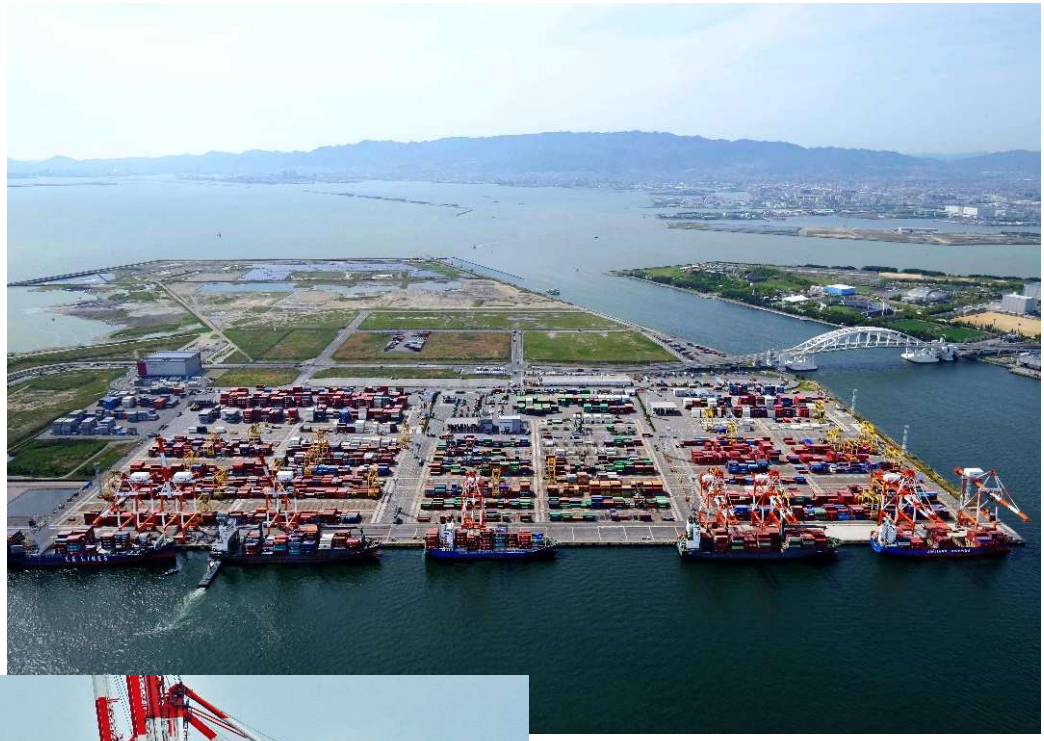
本中期経営計画は、こうした当社を取り巻く状況の変化を踏まえ、今後約3年間における大阪港埠頭株式会社の事業について、その方向性と取り組みを示すものです。

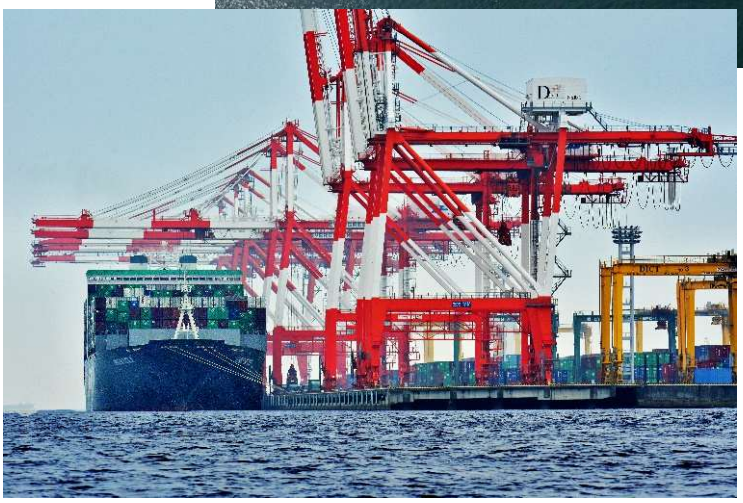


大阪港全景

Ⅰ．経営理念

港湾管理者である大阪港湾局、大阪港・神戸港の港湾運営会社である阪神国際港湾株式会社（HPC）と連携し、国際コンテナ戦略港湾の取組を進め、日本の産業を支える物流インフラである「港湾」の国際競争力の強化に取り組む





コンテナ埠頭（C10・C11・C12）

Ⅱ. 経営方針

（1）埠頭施設の適切な維持管理及び機能強化・効率化

適切な維持管理を行うことにより、施設の機能強化、効率化を図り、災害に強く、安全で使いやすい港を実現する

（2）臨海地域の活性化に向けた事業の推進

臨海部では、万博、IRなどによる国際観光拠点形成に向けた取り組みが進む中、クルーズ客船の誘致等により、さらなる臨海地域の活性化を図る

（3）財務基盤の健全化と組織の活性化

財務基盤の安定化を図るとともに、働きやすい職場作り、人材育成を進める

コンテナ埠頭（C1～4、C8・9）

Ⅲ. 主な取り組み

（1） 埠頭施設の適切な維持管理及び機能強化・効率化

1 阪神国際港湾株式会社(HPC)と連携した保有施設の建設・改良・管理

建設改良工事を適切に実施することで、保有施設の機能向上に努めるとともに、ゲートオープン延長、CONPASの導入をはじめ、コンテナターミナル効率化の施策を推進し、物流機能の向上に貢献する

2 適切な維持管理の継続実施

資金計画に基づいた計画的・効果的な補修を行い、施設を良好な状態に保つ

3 カーボンニュートラルポートの取組み推進

カーボンニュートラルポート(CNP)の形成を推進するため、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化に資する各種の施策を進める

4 災害危機対応等に備えた施設管理の取り組み

大型台風や南海トラフ地震等の大規模自然災害対策、新型コロナウィルス対策の経験を踏まえた感染症の予防対策等の取組など、国や大阪港湾局等関係機関と連携して、施設面も含めた適切な対応策を構築する

（2） 臨海地域の活性化に向けた事業の推進

1 大阪港湾局の取り組みを補完するきめ細かなポートセールスの実施

コンテナ埠頭、ライナー埠頭、フェリー埠頭の更なる利用拡大、物流機能の向上を目指し、きめ細かなポートセールス活動を実施する

2 新たな貨物の創出事業の実施

今後の成長が見込める農林水産物・加工食品などについて、「食の輸出セミナー」など輸出促進に向けた種々の取組みを実施する

3 クルーズ客船誘致等による臨海地域の活性化

クルーズ客船の寄港隻数の増加を目指して、観光コンテンツの発掘、紹介等を行い、船会社や代理店等関係者への積極的な営業活動に取り組む

天保山西岸壁

（3） 財務基盤の健全化と組織の活性化

１ 財務基盤の確立・健全な財務状況の維持

適切な資産管理等に努め、事業運営を支える財務基盤の安定化を図る

２ 人材育成等

健康管理を念頭に時代の変化に応じた働きやすい職場づくりに努める

港湾施策についての見識を持った人材を育成し、大阪港の活性化・魅力向上に貢献する

アマデア　　（天保山岸壁）

フェリー埠頭（F1～4）

フェリー埠頭（R3～5）

具体的な数値目標の設定（大阪港湾局の目標を共有）

・大阪港　外貿コンテナ貨物量：

令和５年（2023年）198万TEU/年 → 2020年代後半　271万TEU/年

・大阪港　外貿定期コンテナ航路数：

基幹航路　3航路（令和５年）→ 維持・拡大

・CNPの推進

CO2排出量：令和12年度（2030年度）に平成25年度（2013年度）比46％削減

CNPの実現：令和32年（2050年）

・クルーズ客船の入港隻数

令和7年に100隻/年

（大阪府営港湾に寄港する隻数を含む）